



「オーディオ・ホームシアター展」見聞記

村瀬 孝矢

●今年も「音展」が開かれる

今年も昨年同様に同じ場所と時期に「音展」(オーディオ・ホームシアター展)が開かれた。秋葉原電気街を抱えるこの場所での開催はこれで4回目、その規模はUDXビルと富士ソフトビルの2つを使用したのも例年どおりだ。集合ブース中心のUDXと試聴ルームとセミナー中心の富士ソフトと分かれたセッティングも、皆さん手慣れてきたようで来場者も比較的スムーズに向かっていた。

そんな会場で目立った傾向は、UDXでの1フロア化した集中展示方法としたこと、富士ソフトでのセミナーや試聴会などの増加である。ただ単にオーディオコンポを眺めるだけでなく、じっくりと聴いてもらおうという主催者側の姿勢がよく見えるようになったことだ。これを良く示したのが、前回から実施するようになった合同出展スタイルによる「音のサロン」会である。3日間を通して連日、富士ソフト7階で催された会は立錫の余地もないほどの盛況ぶり、オーディオと音楽の関係が切っても切れないことを裏付けた。なお協賛メーカーは11社とされるが、オーディオの1つの醍醐味である異種メーカーによる組み合わせコンポシステムの音に触れられるというのが好まれた結果と思う。なおこうした動きは協会側の意図も反映したと思われるが、セミナーや試聴会をより重視して行こうとする姿勢がうかがえ好ましいと思った。

●PC&ネットオーディオ人気とオーディオの小型化が促進

「音展」の華でもある集合ブースの集まるUDXの2Fの1フロアは約50社以上が参集した一大イベント場である。

構成はカーA&V、PC&ネットオーディオ、モバイルオーディオ、小型オーディオ、ホームオーディオと、大きく5つに分けられるが、そのコーナー毎の展示内容が把握しやすくできていたと思う。華やかなのはカーA&Vコーナーだが何せモノがモノだけに大掛かりな設置ブースにきらびやかさが加わり、貴重な音体験もできると人気であった。



UDX会場



三菱電機 DIATONE カーAV コーナー



パイオニアカロッツェリア カーAV コーナー



富士通テンエクリプス カーAV コーナー

そして、オーディオの目的ということでは、各種多様なスタイルのオーディオコンポが集まるこの会場の賑やかさから、関心の高さをうかがうことができる。なお昨年からつづく傾向だが小型コンポへ傾倒するという流れは止まっていないと感じた。PC & ネットオーディオの配信オーディオ系システムが高音質化を目指すものの、ヘッドフォンオーディオが強まる傾向を抑えられず、結果的にパーソナルオーディオ環境の隆盛を招いているということになる。

その PC&ネットオーディオ分野で見られたのは一種の踊り場的な雰囲気であった。昨年のような熱気を感じるまでには至らず、ブース拡大へとつながっていないところにこれがかげえる。ここに参加したメーカー数は 22 社とほぼ昨年と同数というところがこれを物語っている。オーディオを趣味とする高齢者層がこの分野に踏み込んでいないことが原因の 1 つなのだろうと思う。もっともっと広がっているのかと期待していたが、こうした一段落という現状をどう捉えればよいのか、今後課題を残したと受け取って良いだろう。

小型オーディオは会場の制約もあるのか出展者数は 11 社ほどでほぼ昨年と同程度だった。そこでもヘッドフォンオーディオにさらに波及した傾向が見られたし、またより小型コンポに関心が高まっているという印象を受けた。デジタルオーディオの産物なのだが、小型コンポでも十分以上に良い音で音楽鑑賞できることを具体化したとも受け取れる動きである。

ホームオーディオは 15 社ほど出展していたが一部は富士ソフトのセミナールームでイベントを行うなど積極参加しているメーカーもあって良かった。出展するだけでなく音も聴いてもらいたいという強い希望が生まれているのである。前回同様に UDX にも試聴ルームが設けられているものの、今回はそこがホームシアター体験室とされたこともあり別会場でセミナーを実施するという動きにつながったようである。



PC&ネットオーディオ系の協会テーマコーナー



ホームオーディオコーナー



小型オーディオ機器コーナー



ホームシアター体験コーナー

なおこの UDX 会場は時間を掛けてじっくり見ることをお薦めしたい。それは小型コンポならではの豊富なアイデアを盛り込んだ製品が見つかることも期待され、あなたのオーディオシステムの改善のためのヒントが見つかると思うからである。

●昨年につづき盛況な「音のサロン」

そして例年のようにピュアオーディオ系は富士ソフトビルに試聴室を設けていた。この富士ソフトビルでおやっと思ったことが1つある。それが入ってすぐに設けられてきたジャンク市が消えていたことだった。いきなりジャンクでもないだろうと昨年指摘したのだが、今年は参加見送りとなったようで、これを楽しみにしていた方には残念なことだが肩透かしとなった。このようにすべて無くすのではなく、他の適した場所に設置するという方向にし、次回は復活させても良いかと思うがいかがだろうか。



「音のサロン」会場

工作教室は最初の頃から人気のコーナーである。例年の子ども向け工作教室に加えて、2年前から大人の工作教室も併設されるようになり関心度も上がった。子ども向けといっても小・中学生が対象の「エコ付きカラオケアンプを作ろう」や、高校生以上が対象の「高級オリジナルイヤホンの組み立て」など、本格的なオーディオ製作に足を踏み入れることができるかと熱も入っていた。いずれも定員の制限があること、参加費が必要ということから、事前申し込み制としているが早い段階で埋まるという。またアンプ製作などは秋葉原駅前商店街振興組合が主催者であり、その面からも協会と電気街の連携性の良さを見て取れる。



「エコ付きカラオケアンプ」工作教室

そして5階以上がピュアオーディオ系の展示・試聴ブースである。各部屋1社という配置は例年どおりで熱心なファンが詰めかけるブースである。各社はともに主要コンポを試聴してもらいたいという気持ちが表れた熱心な説明がなされるため、滞留者が多くなる傾向が強く、いつものことだがただ覗くだけで通り過ぎるという方も多くて残念に思うところである。ビル反対側の会議室を使うグループは、広めな部屋なことから出展者はまずここを希望するだろうが、ここを確保するには抽選などもあり思うようには行かないのだろうと思う。それでも数社合同にして試聴会を開くというメーカー間の調整あるようで、好ましい動きだと思った。

6階はいずれも広い部屋を使用することから、ある意味これが本来のオーディオ展かも知れないと思った。それでも試聴会などは人数制限を採用した整理券式なので、注目コンポなどを試聴しようと思かける方は時間に余裕を持っていないといけなかった。なお毎年のように参加してきたパナソニックブースが今回は出展会場を変えており、(UDX会場に移動し出展) ちょっと寂しい思いをした。これと対抗してきたソニーは4Kプロジェクターのホームシアター、ピュアオーディオルームと2つのブースを設けており、熱心なファンに答えていることを思うとパナソニックの富士ソフト会場の出展復活を願う気持ちになった。



パイオニア TAD 試聴室



ソニーホームシアター視聴室

そして「音のサロン」の大盛況ぶりは先に述べた通りだが、代わるがわるいろいろな音に関する催しが行われ、来場者らは休息も兼ねつつ目でオーディオが楽しめるという雰囲気好まれたようである。会場は約80名ほどの椅子席が用意されるが連日満席なのである。もっとも3日間で内容が異なっ

たのであらかじめ演目を調べて行かないと、目的のものを楽しめないのが注意が必要である。これはパソコンなどネット環境が整っていないと調べられない、この辺がオーディオファンとどう整合させるか課題だろうと思った。告知など先行したPRをどのようにするか考えないといけな

●セミナーも人気だった

今年も富士ソフトビルの5階アキバホールと6階セミナールームの2つを使って行われた各セミナーが盛況であった。協会主催の「ホームシアター」や新しい音源である「BDオーディオソフト」、さらに専門誌セミナーによる「CD30年を聴く」、「ネットオーディオ情報」、「ガラスCDを聴く」、「真空管アンプ試聴会」などから、出展社による個別のセミナーなど、いずれも満員という具合でオーディオファンの貪欲な情報収集力を感じることができた。

アキバホールでは日曜日に恒例となった「生録会」(ライブレコーディング体験会)も行われた。ビギナーの方、大歓迎と称して開かれたが、各デジタルレコーダーメーカーの協賛により機材の貸し出しもあり盛況であった。特に今年は音源がオーディオファン待望とも言える大編成の吹奏楽団となったので申し込みも多数であったと聞く(録音参加費500円)。

録音会は当日2回の実施、参加人数は合計110名(リスナー参加もOKでこちらは200名)とさすがホールならではの催しである。ここは音響的な環境も整っており、円形ステージに階段式座席という条件の良さもありオーディオ展示会らしい催しである。



ライブレコーディング風景



最近のオーディオ音源の動向について



出版社セミナー

●ホームシアターの話

ホームシアターは展示会のもう1つの柱にしているが、昨年以上に今年の出展が少なくなったのが残念だった。それでもソニーが昨年ここに間に合わなかった4Kプロジェクターを持ち込み、4Kの高精細で美しい映像世界と本格サラウンドシアターを見せていたことは良かった。ライバルらがホームシアターを提案していなかっただけにビジュアルファンを喜ばせたのではないかと思う。ホームシアターは薄型テレビの大型化によりテレビによるホームシアターで充足されてしまった感もあるが、実際は調査資料によると大画面テレビのシアターに刺激を受けスクリーンシアターを考えたいと言う方が増えているといい、今後もファンが定着すると見込まれるだけにもっと多くの参加メーカーを募りたい。

BDソフトやBSデジタル放送など高画質なハイビジョン映像世界が整っており、またホームシアター用プロジェクターも手頃な価格で揃うようになっており、火が消えるどころか支持するファンも多くおられるのだと、無視しないように心掛けたいものである。

●まとめ

秋葉原という会場、無料という2つのプラス要因もあり「音展」(オーディオ・ホームシアター展)はこの世情の中で集客力も強い展示会である。

高齢化しているオーディオファンも多いが、ネットやデジタルオーディオとヘッドフォン試聴スタイルが広まったことから若いファンも増えてきている。特に小型オーディオ機器はそうした層に人気があり、ヘッドフォンともども拡大する感じを受けたのが今回の特徴でもあった。これがオーディオの醍醐味とも言える家庭内オーディオシステムへとつながって欲しい気もするが、そうした魅力的なモデルが見られる場が少ない印象を受けたことは少し残念でもあった。

海外モデル勢がもう1つの展示会へ流れているという指摘が毎回されるのだが、これらと何とか合同できないものだろうかと思う。ファン層が違うといえそうなのだが、オーディオファン全体からすれば小型から大型の未来的モデルなど同一の関心事なのであるからだ。それに一向に収まらない不景気という経済状況は足を遠ざけることになってもその逆はないのであり、それに打ち勝つ意味でも、展示会の魅力を一層高めなければならない時期になっていると考えるのである。